
クローバードロップス

零雑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クローバードロップス

【Nコード】

N9041C

【作者名】

零薙

【あらすじ】

中学2年の魅瑠がちいちゃんと登校中。そんなとき電柱にぶつかってしまって・・・

出会いの電柱

ねえ、飛牙。

あたしは飛牙がいなかったら生きてる感じがしなかったよ。

あたしはごく普通な高校1年生。夏衣^{なつゐ} 魅瑠^{みる}っていいいます。このお話はあたしが飛牙^{ひつが}に恋した中学生のころの物語です。

中学2年 4月6日

さあ今日から新学期!!!

ちよつと大人になった気分になったあたしはルン
ルン な足取りで学校に
むかった。

「あんたキモいんだけど・・・。」今あたしに毒舌したのは小さいころからあたしが仲良しだと思ってる薙癒^{ちゆ}ちゃん。

「ちいちゃん当たり前だよ。」「なんでよ。」

「だってあとちよつとで先パイからのいびりから解放されるっつ。」
あたしとちいちゃんがいってる部活はめっちゃきびしいバスケット部。

きついどころか死んでしまう。っていうような部活で

勉強に力をいれられない。感じ

「はあなにゆってんの。1年が増えたからって練習メニューはかわ
んないのよ。」

魅瑠、撃沈。魂が抜け去った。

「おいていくから。」

スタスタ・・・。「まってよ、ちいちゃん」

ホントにおいつてったちいちゃんを追いかけるあたしちいちゃんは
ひどい!!! そんなちいちゃんがあたしは大好き。

ドガッ

ちいちゃんに殴られた・・・。イタッ

なんかにぶつかった感触えつつ???電柱つてまたベタだな。

プハ

そんなとき後ろから笑い声が聞こえた・・・。「おい、電柱にぶつかったお前。」

出会い〜笑い〜

「おい、電柱にぶつかったお前。」

えつつなに???この男の子あたしのこと心配してくれてる????

「お前、目えちゃんについてんの。」

そう言つて男の子はあたしの視界から消え去つた。

フフ・・・フ・・・フフフ。

あたしはふてきにわらつた。

「あんたのドジはいつものことだからあんま気にしないでいいわよ。」

「

フ・・・フハハハハ

「ちょあんた頭大丈夫???」

あたしはさっきの男の子に一目惚れしちゃつたあの〜。

キヤハハア

ヤバかつこイイ

ちいちゃんは呆れている。

生まれてはじめての一目惚れをあたしはした。

「あの人なんていうんだろう???」

あたしは胸のときめきをおさえきりれない。

「早くして。何組か早くみたいんだから。」

「・・・。」

ちいちゃんはあたしを当たり前のようにおいていつてしまう。

ずっとときめいていたかつたけどちいちゃんがおいてくから仕方な

くちいちゃんを追いかけた。

5分くらい歩いているとみなれた校舎がみえてきた。

あの人とおんなじクラスでありますように。夏衣 魅瑠。この4文

字はどこにあるんだあ。

あつっ。

あつたあ。

2組の下の段の右から9番目に。

あたしはちいちゃんに気がなつたからちいちゃんの方を向く。
するとあたしとおんなじ2組をみていた。

「ちいちゃんはどのクラスやったあ??」

「ない」

「えつつ」

「なあんてね」

あたしはかたまつた。

あれ??

ちいちゃんってこういうキャラだっけ??

よく見るとちいちゃんの名前はあたしの2つ後にかいてあつた。
すると、ガラスごしにさっきの人発見!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9041c/>

クローバードロップス

2010年10月14日11時29分発行